

高付収益を生み出すファブレス経営

ファブレス経営とは何か？

「ファブレス経営 (Fabless Business)」とは、生産設備等のストックを持たず製造部門を完全にアウトソーシングする経営形態をいう。もともとアメリカのシリコンバレーで、80年代の半導体不況や不良設備投資の悪循環を断ち切る経営手段として考案されたものだ。付加価値の高い設計開発に特化し、コア・コンピタンスを強化する経営手法として注目されている。ケアレス経営は、パルチクルコーポレーション、技術とアイデアで闘う頭脳技術集団の究極的な姿である。アイデアが勝負のファブレス経営は成功すれば超高収益を生み出す可能性を秘めたビジネスモデルである。

ファブレス経営の長所と短所

ファブレス経営のメリットは、

- ① 経営資源を開発・設計に集中できる。
- ② 設備投資、固定資産保有によるリスクも少ない。
- ③ 急激な市場の環境変化に即応できる。
- ④ 幅広いネットワークを武器に世界に展開ができる。

一方、デメリットとしては、

- ① 製品ノウハウが他社に漏洩する危険性が高い。
- ② 自社に生産現場の知識・技術が蓄積されない。
- ③ 品質、納期管理等に慎重さが要求される。

ファブレス経営を進めるために

ファブレス経営を成功させるためのポイントは次の通り。

- ① コア・コンピタンスに経営資源を集中させる。
 - 自社の強みを発揮
 - 市場競争力を高める戦略
- ② マーケティング力の強化
 - 競合に打ち勝つ先見性
 - 常に一步先を読むマーケティング戦略
- ③ 独自の販売チャネル開発
 - IT をによる B to C のチャネル開発を
 - 中間コスト削減による価格競争力アップ
 - 顧客からのフィードバックによる情報収集
- ④ 信頼できる業務委託先の開拓
 - 試作から量産までの体制整備
 - 価格競争力のある安定した生産体制
 - 委託先の選考は慎重さが必要
- ⑤ 知的財産権の行使
 - 開発技術を盗まれるリスクの防止
 - 委託前に財産権を確立
- ⑥ 生産技術の最重要ノウハウは出さない
 - キーとなる重要な技術部分だけは内製化
 - 生産技術ノウハウの流出を防止

